

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

「アフリカ諸語における声調・アクセントの総合的研究」（平成28年度第3回研究会）

日時：平成29年3月25日（土曜日）午後1時30分より午後6時

場所：AA 研302号室

出席：梶、角谷、小森、安部、塩田、牧野、古本、阿部、米田、高村、品川

報告タイトルと報告者氏名・所属

1. 「スワヒリ語マクンドゥチ方言のトーンとストレスー名詞のプロソディ特徴についてー」

古本 真 AA 研共同研究員（京都大学）

2. 「ヘレロ語の名詞の声調（Bantu R31）」

米田信子 AA 研共同研究員（大阪大学）

1. 「スワヒリ語マクンドゥチ方言のトーンとストレスー名詞のプロソディ特徴についてー」

古本 真 AA 研共同研究員（京都大学）

スワヒリ語マクンドゥチ方言は、スワヒリ語の威信変種であるウングジャ方言や標準スワヒリ語（以下スワヒリ語）とは異なり、トーンを持つことが指摘されてきた（Whiteley 1959, Philippon 1993, Racine-Issa 2002）。本発表では、まず、先行研究で取り上げられている名詞の単独発音を実際に聞きながら、先行研究で記述されているトーンが観察されないことを確認した。これらの名詞では、トーンと認められるほどの音節間に明瞭なピッチの違いはなく、平坦に聞こえる。このことを踏まえると、マクンドゥチ方言では、多くの名詞でピッチが平坦に推移していることが予想される。こうした予想に基づき、より多くの二音節名詞、三音節名詞のピッチを音響的に計測した。その結果、他の名詞でも、多くの場合、ピッチが平坦に実現されていることが明らかになった。

この事実の帰結として、マクンドゥチ方言では、スワヒリ語とは異なり、次末音節のストレスが、少なくともピッチという形では実現されないということがいえる。

今後の課題として、トーンがマクンドゥチ方言に存在するのかどうかという、音韻論的分析が残る。この議論のためには、単独での発音だけでなく、名詞修飾語を伴った形式や、動詞の項になる場合の実現を確かめる必要があるだろう。

2. 「ヘレロ語の名詞の声調（Bantu R31）」

米田信子 AA 研共同研究員（大阪大学）

本発表では、ヘレロ語名詞の声調パターンとそれぞれの屈折形、そこに適用されている規則について報告した。ヘレロ語はバントゥ諸語のひとつで、南部アフリカに位置するナミビアとボツワナで話されている。話者数は、ナミビアに約 206,000 人、ボツワナに約

31,000 人、その他アンゴラに少数の話者がいると言われている (Ethnologue <http://www.ethnologue.com/>)。

ヘレロ語の名詞には 2ⁿ とおり (n は名詞語幹の音節数) の声調パターンがある。以下、2 音節名詞語幹の例と 3 音節名詞語幹の例を挙げる。

・ 2 音節名詞語幹

(LL-) LL	: otji- hape	「果物 sg」	(○○-) ○○
(LL-) LH	: otji- vavá	「翼 sg」	(○○-) ○●
(LL-) HH	: oru- táví	「枝 sg」	(○○-) ●●
(LL-) HL	: otji- tíha	「テーブル sg」	(○○-) ●○

・ 3 音節名詞語幹

(LL-) LLL	: omu- pangure	「裁判官 sg」	(○○-) ○○○
(LL-) LLH	: ou- tukaré	「衰え・弱さ」	(○○-) ○○●
(LL-) LHL	: ovi- maríva	「お金 pl」	(○○-) ○●○
(LL-) LHH	: otji- nambáká	「カエル sg」	(○○-) ○●●
(LL-) HHL	: omu- kázóna	「娘 sg」	(○○-) ●●○
(LL-) HHH	: omu- kázéndú	「女 sg」	(○○-) ●●●
(LL-) HLL	: otji- pwíkiro	「収納庫 sg」	(○○-) ●○○
(LL-) HLH	: otji- tjáuví	「蜘蛛 sg」	(○○-) ●○●

ヘレロ語には tone case と呼ばれる名詞接頭辞部分の声調による屈折システムがある。名詞接頭辞部分の声調、すなわち屈折形には以下の 3 種類ある。

「果物 sg」	・ (標準形) LL-	otji- hape	○○-○○
	・ (補語形) LH-	otjí- hape	○●-○○
	・ (提示形) HL-	ótji- hape	●○-○○

名詞語幹と名詞接頭辞が結合する際には次のような規則が適用される。

I. 名詞接頭辞の H は右隣の音節に拡張する。

「果物 sg」	otjí- hape	○●-○○	>	○●-●○
	ótji- hape	●○-○○	>	●●-○○

II. 名詞接頭辞を含めて H が 3 つ以上並ぶと 2 つめ以降の H は少し低く現れる。

「娘 sg」	omú- kázóna	○●-●●○	>	○●-●●○
	ómu- kázóna	●○-●●○	>	●●-●●○ > ●●-●●○